

## 「幼子のように」 ～つまずきを取り除く～

マタイ 18:1～16

子どもの姿と言われて皆さんはどのような姿を連想するでしょうか。正直・無邪気・素直・・・など色々な姿がありますが、大人と大きく異なる点は「自分の能力を知らない」という点です。絶対に無理な所から降りようとしたり、興味のある事は何でもやってみます。親に愛されて育った子どもは、愛されている自信の故に何でもできると思っていますのです。私達も天のお父様に愛されています。だからこそ「自分にはできないけど、神がせよと言われるからするんだ。」その気持ちが大切なのです。聖書では幼子のようにになりなさいと言われてます。神様が私たちに求めているのは、立派な言葉を並び立てた祈りや形ばかりを気にした信仰の姿ではありません。大人がする事は「比較」です。今日の聖書の箇所でも弟子たちがしている事は「比較」です。そのような弟子達にイエス様は『まことに、あなたがたに告げます。あなたがたも悔い改めて子どもたちのようにならない限り、決して天の御国には、入れません。』とされています。神は私達に「比較」する事を求めておられません。天の御国で一番偉い人であって欲しいのです。(マタイ18:4) その為には幼子のようになる事が大切なのです。世の中の基準は「比較」です。人と比較して自分の現状に満足したり、あせったりします。また数値で比較したりします。しかし、神は不可能な現実を可能に変えられる方です。「比較」さえしなければ、幼子のようになれば、「私にはできないけど神にはできる。だから私にもできる。」と言えるようになります。『私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。』(1コリ3:6) 不可能を可能にするのは神です。私達ではありません。「比較」さえしなければ私達にもできるのです。「比較」をすると人を裁く目線になってしまいます。聖書に登場するカインは自分と弟を比較してしまった為にその結果弟のアベルを殺してしまうという最悪の決断をしてしまいました。「比較」から良い事は生まれません。私達は「比較」から勝利しなければなりません。『あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。行いによるものではありません。だれも誇るためのないためです。』(エペ2:8,9) 私達が救われたのはただイエス様の十字架の恵によるものです。私達の能力や行いで天に入れるかどうか決まるわけではありません。その事を思えば「比較」する事は何の価値も無いことがわかるのではないのでしょうか。「比較」は私達の期待を奪い、神の奇跡を遠ざけるものです。「比較」から勝利し、幼子のようになる為に**①自分の能力を捨てる**。イエス様の十字架をただ信じて下さい。「自分にはできる。」とか「自分にはできない。」とかそのような思いを捨てるだけです。できるとかできないの前に私達は実を結ぶ為に神に選ばれているのです。(ヨハネ15:16) できない時できる力を与えて下さるのが神です。イエス様の十字架は**②あなたの比較を捨てさせます**。自分のできる事をひけらかす必要はありません。なぜなら、そのように立たせて下さっているのは神であって、自分ではないからです。また自分をできないと卑下する事もあります。あなたができないからではなくそれぞれの時があるからです。しかし、それに甘んじてはいけません。私達にできる事は幼子のように神の御前に入る事です。**③つまずきを取り去る**(マタイ18:7) 自分が元気を無くすとき、自分につまずいているのです。もちろん他人につまずきを与えるのも良くありません。しかし今日一番気をつけたいのは「自分につまずく」という事です。聖書ではつまずきが起こるのは避けられないとあります。その後自分で自分につまずく事を聖書は恐れているのです。人から影響を受けることのない1年にしましょう。子どもは親が居ると誰が来ようと何があろうと安心しているのと同じで私達も天のお父様と親密な関係なら人の言動や態度などに左右される事はないのです。もし人に影響を受け、自分で自分につまずいているのなら天のお父様との関係が希薄になっているのではないのでしょうか。エペソ書の中にはキリストの身文にまで成長しなさいと書かれています。御言葉に精通していく部分では大人になる必要がありますが、子どもの心を持ったまま成長して下さい。